



Vol.3

あたり前になりすぎた 海が存在

特定非営利活動法人
瀬戸内里海振興会
平本 元



赤い帆の船に乗ってやってきた市杵島姫命が、安芸の国の有力者であった佐伯鞍職に命じ、宮島の地に厳島神社を建立してから約 1600 年。

広島湾の歴史はそこから始まったと言っても過言ではありません。瀬戸内海が畿内と北九州を結ぶ交通路として重要性を増す中で、宮島は海洋神としての性格を併せ持つ神として広く信仰されるようになり、併せて対岸の廿日市が栄え、太田川河口には広島街が形成されていきました。陸域交通網の発達により西国街道沿いに街ができ、太田川は南北をつなぐ水の路となりました。

21世紀を迎えた現在、私には、このような地域特有の歴史が、徐々に忘れられつつあるような気がしてなりません。そしてその一方で、広島湾をとりまく環境は大きく変化し、様々な環境問題がクローズアップされつつあります。

先人が海とともに育み、守り続けてきた地域の文化や歴史、自然環境を、今後も変わらず継承していくためには、もう一度、私たち市民が広島湾の恵み、豊かさを再認識し、それを更に次世代へと伝えていくことが重要なのではないのでしょうか。



そのような思いから、近年、私たちは特に「人と海とのつながりの再生」ということをテーマとし活動を行っています。広島湾沿岸域の見どころを整理した“広島湾マップ”の作成や、“広島湾魅力発見ミーティング”と称したワークショップの開催、小学生を対象とした海の総合学習“広島湾e～子プロジェクト”の実施など、広島湾沿岸域に住む様々な世代・性別の方々をターゲットに、地域の海のおもしろさを見つめなおす“きっかけづくり”をお手伝いしています。

あまりに当たり前になりすぎていた地域の自然、海が存在。私も、長年、海と係わる仕事に携わってきましたが、それでも色々な方々と出会い活動する中で、また新しい広島湾の魅力を発見する日々です。

特定非営利活動法人 瀬戸内里海振興会のホームページはこちらです。

<http://www.satoumi.org/index.html>